

発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全4枚)

氏 名 植木 陽祐

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)		<p>「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」の拡充について 活用方法について</p> <p>政府は、物価高騰への対策として「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」を拡充する方針を示しており、これらの交付金の活用方法については、各自治体の判断に委ねられる。目的を何に置き、どのような活用を検討しているか示せ。</p>	
	(2)		<p>市独自の追加支援について</p> <p>市内の地域経済の循環となるという観点からは、市独自の追加支援を検討するとよいと考えるが、所見を問う。</p>	
2	(1)		<p>ボトムアップ型の政治を目指すタウンミーティングについて タウンミーティングの意義について</p> <p>人口減少と少子高齢化という大きな課題に対応し、地域の持続可能な発展を図り、若者から選ばれ、安心して子や孫と幸せに暮らせる加賀市を目指す上の手段としてタウンミーティングが挙げられているが、タウンミーティングの意義をどのように考えているのか示せ。</p>	
	(2)		<p>タウンミーティングの重要業績評価指標（K P I）について</p> <p>タウンミーティングの重要業績評価指標（K P I）はどこに設定しているのか。参加者数や、どのような層から意見を吸い上げ、結果として何が叶えば成功と判断するのか、振り返りの基準を示せ。</p>	
	(3)		<p>市民の政治参加について</p> <p>タウンミーティングの場は市民の政治参加を促す機会になると考えている。意見の吸い上げ、政策へ反映、そして推進するフェーズでも市民が参画できる機会をつくるべきだと考えるが、所見を問う。</p>	
3	(1)		<p>高等教育機関の誘致について 高等教育機関への進学状況について</p> <p>現在、加賀市から高等教育機関（大学、短期大学、専門学校）へ進学している人口は何名程度であるのか。</p> <p>また、進学先はどのような大学（偏差値やエリアなど）、学部、短期大学、専門学校に分かれているのか。</p> <p>さらに、その進学先を選んだ理由について、市として把握している範囲で示せ。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全4枚)

氏 名 植木 陽祐

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
	(2)		<p>誘致する高等教育機関の適格性について</p> <p>宝塚医療大学観光学部など誘致を検討している高等教育機関の偏差値、学部、入学人数は、市内の高校生の「ここに進学したい」という需要を満たしていると考えているのか。</p>	
	(3)		<p>高等教育機関誘致において重視する点について</p> <p>高等教育機関誘致にも、現在進められている企業誘致にも同じことが言えるが、加賀市の若者の需要を理解し、供給できる場が加賀市にあるかという需要と供給の合致が重要である。引き続き検討される高等教育機関誘致において、まずは偏差値の異なる複数の大学を誘致する、入学受入れの母数を早期に担保するなど、こういった点に重点を置いて誘致を進めていくのか。</p>	
4	(1)		<p>未来型商業エリアの商業施設について</p> <p>施設の目的等について</p> <p>本計画においては、「利便性」「雇用」「歳入」「景観」など、様々な観点から、市民の間で賛成の声もあれば反対の声も寄せられているが、市としては、加賀温泉駅前商業施設について、何を最大の目的に置き、そのために必要な店舗数や来場者数をどのように試算しているか示せ。</p>	
	(2)		<p>加賀市の独自性を生かすことについて</p> <p>加賀市の未来を考えたとき、東京都や大阪府、金沢市といった都会にはない魅力を作り込んでいく必要があると考える。加賀市にある景観を生かしていくこと、また加賀市内にある飲食店にも活躍の機会をつくること、加賀市の食材や工芸品といった特産を生かした店舗を誘致することで、都会の真似事ではない、加賀市独自の発展ができると考えるが、所見を問う。</p>	
5	(1)		<p>学校給食の地産地消、オーガニックについて</p> <p>給食の価値について</p> <p>給食無償化が実現され、子育て世帯の家計を大いに助け、また、米飯中心、加賀市産の食材を使用している献立が多くの方の努力で実現されていると感じる。給食には心身の健全のため、エネルギーを得るということはもちろん、学校給食法に基づいて提供がされているが、改めて市として、給食が生み出す価値について、所見を問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全4枚)

氏 名 植木 陽祐

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
	(2)		<p>特色ある給食の採用について</p> <p>子供たちの体づくり、食育、そして郷土愛の醸成という観点から予算を追加することで、新たに給食が生む価値があると考ええる。年間を通じて地産地消の給食、子供たち自身が栽培した食材が入っている給食、オーガニック給食などを取り入れることで加賀市の教育は一層特色を増し、良いものとなると考えるが、所見を問う。</p>	
6	(1)		<p>農業施策について</p> <p>現在の新規就農者支援策について</p> <p>農業は日本の基幹産業とも言え、食料自給率が低水準で留まっている日本において、安全保障にもつながる重要な産業である。</p> <p>近年、新規就農者の中で有機農業を希望する割合が年々増加しているが、加賀市において、新規就農者の有機農業への志向や取組の現状はどのようになっているのか。</p> <p>また、市として新規就農者に対してどのような支援策を講じているのか示せ。</p>	
	(2)		<p>新規就農者支援策の強化について</p> <p>新規就農者が増えていないという現状から、より充実した支援策が必要である。もしくは、加賀市の歳出の1.2%しかない農業予算が足りておらず手が打てていないか、そのどちらかだと考える。商業施設で加賀市の特産物を知ってもらう機会をつくる、給食を通じて地産地消を促すなど、他の施策と連携することで、就農希望者を募るきっかけになると考えるが、所見を問う。</p>	
7	(1)		<p>観光客誘致の取組について</p> <p>トップセールスの成果指標について</p> <p>観光客誘致の施策として、市長及び観光協会代表によるトップセールスの実施が予定されていると伺っている。旅行会社を何社訪問し、具体的に旅行会社に対して何を願うのか。そして、何が実現すれば「このトップセールスを行って良かった」と振り返ることができるのか、その指標をどのように設定しているのか。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (4枚目/全4枚)

氏 名 植木 陽祐

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
	(2)		<p>インフルエンサーの起用について</p> <p>インフルエンサーを起用し、SNSでの発信によるインバウンド誘客を予定していると伺っているが、どのような経緯で台湾が選定されたのか疑問を感じる。そこで、次の点について問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、市民に市内旅行券を配付する等、確実に地域経済が回るのではないかと考えられる方法が他にもある中、SNSでの発信によるインバウンド誘客を図った理由について ・近隣の観光地には、台湾からの観光客が多く訪れている一方で、加賀市だけが取りこぼしていると判断されたのか。 <p>また、その具体的な根拠について。</p>	